

済生会横浜市南部病院の再整備について

健康福祉・医療委員会
令和元年5月28日
医 療 局

1 済生会横浜市南部病院について

済生会横浜市南部病院は、民間による建設・運営を基本とした高度な医療機能を有する「地域中核病院」の第1号として、港南区港南台で開院（土地無償貸付、共同建設方式）しました。社会福祉法人^{思賢}済生会が整備し運営を行っており、市南部地域の高度急性期・急性期医療の中心的役割を担うほか、二次救急拠点病院や災害拠点病院等の政策的医療を担っています。

2 再整備の必要性と必要規模

昭和58年に開院してから35年以上が経過し、空調や排水管等設備の大規模修繕が必要となるなど、建物の老朽化が進んでいます。また、1床当たりの床面積は約59㎡と他の中核病院と比較して最も狭く、プライバシーの確保や大型医療機器の更新が困難となるなど、狭あい化も課題となっています。病院が実施した患者満足度調査でも設備面の苦情が常に要望の上位となっているなど、早期に再整備を行う必要があります。

新たな医療機能の追加や医療機器の大型化等を踏まえ、再整備時には下記程度の規模が必要になると考えます。

	病床数	1床あたり	延床面積
現病院	500床	59㎡	29,422㎡
再整備時の想定規模	500床程度	80~90㎡	40,000~45,000㎡

※中核病院と市民病院の
1床あたり面積の平均
⇒88.6㎡

3 再整備の候補地の前提条件について

- ・市南部地域の高度急性期・急性期医療の中心的役割を担う病院であり、患者の通院や他医療機関との関係から、現在地から大きく移転させることは困難です。
- ・地域からは、「港南台地区から移転しないでほしい」との強い要望を受けています。
- ・40,000㎡~45,000㎡の延床面積が確保できる**敷地の広さ**と、**救急車のアクセス**など、高度急性期病院に適した環境が必要となります。

4 港南台地区の候補地について

前提条件から、港南台地区で検討を進めた結果、建設に適した広さを確保でき、幹線道路のアクセスもよい**旧港南工場敷地が最有力候補地**と考えています。

今後、地域からの意見も聞きながら市として方針決定を行い、済生会との基本協定を締結する予定です。

敷地	評価
旧港南工場敷地 面積：約40,013㎡ 用途地域： 準住居地域 （容積率：200%）	メリット ア 敷地面積が十分あり、 建設に適した広さを確保 できる イ 幹線道路に面しており、救急車両や来院車両のアクセスがよい
	デメリット ア 旧港南 工場を解体 し、収集事務所を再整備する必要がある イ 駅から離れるため、患者の交通アクセスに影響がある ※ 土壌調査を実施した390地点のうち、フッ素、鉛各1地点の基準超過はあったが適切に対応可能

敷地	評価
現病院敷地 面積：約14,500㎡ 用途地域： 近隣商業地域 （容積率：400%）	メリット ア 現位置のため 環境の変化がない デメリット ア 解体・増築を繰り返すため、 建設工事が長期間 （約7年）となる イ 工事中の騒音や振動などで一部の 診療を制限 するなど、通院・入院患者への影響がある ウ 狭い敷地での建て替えとなり、 使い勝手の悪い建物 となる エ 新病院建設には大幅な高さ制限の緩和が必要 （高さ制限20m、現状44m→計画60m）

【参考1】その他の港南台地区の市有地について

以下の市有地については、**候補地とすることは困難**です。

港南台中央公園 面積：約41,400㎡ 用途地域： 第二種中高層住居 専用地域 （容積率：150%）	課題の解決が困難 ア 都市公園であり、 隣接地に等積（3ha）以上の代替地が必要 イ 区画整理以前の地山を残しており、 大規模な造成が必要 ウ 自然環境への影響
学校用地 （港南台第一中学校 第二グラウンド） 面積：約20,471㎡ 用途地域： 第一種中高層住居 専用地域 （容積率：150%）	整備用地として不適 ア 周辺道路が狭く、高度急性期病院のため 多数来院する救急車の往来に適さない イ 病院が 必要とする延床面積が確保できない ウ 学校の建替え時に活用 する予定

【参考2】 想定事業スケジュール



【参考3】 想定事業費について

新病院は済生会が整備し、その費用も負担しますが、病院建設や医療機器購入等の事業費（現病院の解体含む）は、**約310億円**を想定しています。

なお、その場合の市の負担額は約23億円となります。

※延床面積約4万㎡で試算しています。

※事業費については、詳細な事業計画の策定にあわせて精査が必要です。

※敷地の状況によっては、追加で費用が必要となる可能性があります。

市費負担内訳	補助率	市負担額
建設費補助 （補助対象額の上限：36万円/㎡）	1/10	14億円
設計・工事監理費補助	1/2	3億円
現病院解体	—	6億円
計		23億円

港南台地区周辺図

